# お客さまの商品価値向上を目指す

## ～東洋機械金属 創業90周年 さらなる飛躍へ！～

### INTERVIEW

東洋機械金属は射出成形機、ダイカストマシンの有力専業メーカー。「カスタマーズ・バリュー・アップ（お客さまの商品価値向上）」を掲げ、グローバルに事業展開を行う。2014年は大きな変化があり、日立製作所グループ（持ち分法適用会社）から外れ、44年ぶりに生え抜きの社長が誕生した。併せて日本製鋼所や宇部興産機械（山口県宇部市）との資本業務提携にも踏み切った。5月16日には創業90周年を迎え、さらなる飛躍を目指す同社の十亀和則社長に、90年の軌跡を振り返ってもらいつつ、将来展望を語ってもらった。（聞き手は日刊工業新聞社取締役大阪支社長・曽根洋一）

東洋機械金属　十亀 和則 社長

### 自立した組織で攻める

**曽根**　創業90周年おめでとうございます。これまでの90年を振り返って、強く残っていることはありますか。

**十亀**　当社は1925年に神戸製鋼所の紡績機械部門から独立し、事業をスタートさせました。もともと強烈な創業者がいた訳ではなく、70年に日立製作所のグループとなって以降も、社長は日立から派遣される形でずっとやってきました。戦後は繊維機械を柱にしながら電動トラクターや作業工具、農機具なども作っていたようです。ただ繊維産業が縮小し、一方でプラスチックやアルミニウムを材料とする部品が伸びてきたことも背景に、59年にプラスチックの射出成形機、63年にアルミのダイカストマシンを手がけるようになりました。私は60年生まれのため、昔の事はよく分かりません。ただ社内に残っている古い建屋を見ていると、先輩方の血と涙と汗は、この建屋が知っているんだなと考えさせられるものがあります。

**曽根**　14年6月に就任した十亀社長は、実に44年ぶりの生え抜きの社長だそうですね。

**十亀**　当社が日立製作所の持ち分適用会社（出資比率二十数%）になって以降、44年間、社長は日立出身者が続いていました。私が入社した時、日立から来られている社長についていけば大丈夫だ、そんな雰囲気が自然とありました。しかし紆余曲折を経ながら、14年には日立からの出資分の比率が8%台に下がりました。私が社長になったことは、自立しなさいよというメッセージだったと思います。

### 社のかじ取り 覚悟決め挑む

**曽根**　社を引っ張って行くことについて、戸惑いはありませんでしたか。

**十亀**　正直いいましてえらいものをしょったなと…。一方で会社のかじ取りを、我々社員がこれからはしっかり考えてやっていこうと覚悟を決められたことも事実です。前社長（片山三太郎氏）に言われましたのは、日立出身者は最初この会社の事をよく知らずに来て、2、3年たち、ようやく分かり何かやろうとしたら交代で終わり、ということもあると。それを考えたら、君はこの会社に何十年もいてよく知っている、それなりの事ができるだろうと説得されました。

曽根 支社長

### 安心の機械 的確に提供

**曽根**　改めて社が培ってきた強みを教えて下さい。

**十亀**　射出成形機、ダイカストマシンの専業メーカーとして、お客さまに対し使っていて安心して頂ける機械を的確に提供できていることでしょうか。プリント基板やソフトウエアの開発も自前で行い、高い付加価値の提案にこだわっています。デンソーさん向けの生産設備に組み込まれる機械（省エネ小型低圧ダイカストシステム）の製作にも対応し、機械振興協会からは賞もいただき、評価されました。業界に先駆けて機械の電動化に取り組み、関連特許も押さえ、ノウハウを蓄積しています。電動化においてサーボモーターやボールネジの耐久性が求められますが、専門メーカーと勉強しながら技術確立に努めました。電動化で作業性に加えて省エネ化など環境性能の向上にもつながっています。

**曽根**　グローバル展開を強化し、今は売上高の約7割が海外向けだそうですね。

**十亀**　スマートフォンなどのIT関連や自動車向け、生活関連など、これからも海外向けは伸びていくと思います。当社は中国、台湾、韓国、東南アジア、米国、欧州など代理店を含めて海外に58の営業・サービス拠点を構えますが、今後もメキシコなど検討していきたいですね。特に当社の機械の特徴である電動式の普及率は日本は7割ですが、世界では1割でまだまだ伸びる要素はあります。中国・常熟市に07年に工場を構え、電動式の射出成形機とダイカストマシンの現地生産も行っています。さらにイタリアとトルコで1年半ほど前から電動式射出成形機のノックダウン生産を行い、部品も現地調達してローカルカスタマイズ化を図り、現地の人が売りやすくすることを狙っています。

### 自分達でやる 雰囲気づくり

**曽根**　100周年に向けて、目指すべき将来像など、どのように考えていますか。

**十亀**　今後3年間の中期計画を作り、始動しています。17年度（18年3月期）に売上高が300億円（15年3月期は260億円）、営業利益を30億円（同18億円）に設定しました。この3年で設備投資は国内だけで50億円を投じ、建屋や設備の増強も実施中です。当社の主力は型締め力180ﾄﾝ以下の小型機なのですが、今後は同300ﾄﾝ以上の中・大型機への対応を強化していきます。また複数の大学と取り組んでいる産学連携などで、新しいものも生み出していかねばと思っています。特に素材の取り組みを重視し、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）などへの対応も大きなテーマにしています。

**曽根**　最後に、持続成長に向けて社員に強く求められていることを教えてください。

**十亀**　社員一人ひとりに、自分の会社だと思ってくださいと言っています。日立グループの時は当社に受け身のDNAがあったかも知れませんが、もっと『自分たちでやっていこうよ』という雰囲気を作っていければと思います。小規模でも世界に輝けるモノづくりを展開する日本企業は多く、その手助けに当社がなれれば、一番うれしい。日本は今後もモノづくり立国であり続けてほしいし、それに貢献していきたいですね。

**曽根**　東洋機械金属の将来に大いに期待しています。本日は有り難うございました。

### 東洋機械金属90年の歩み

| | |
|---|---|
| 1925年5月 | 神戸製鋼所の紡機部門より分離独立、「紡機製造」として繊維機械の生産を開始 |
| 49年8月 | 大阪証券取引所市場第二部に上場 |
| 59年7月 | 射出成形機の生産開始 |
| 62年1月 | 社名を「紡機製造」から「東洋機械金属」に変更 |
| 63年4月 | ダイカストマシンの生産開始 |
| 70年11月 | 日立製作所のグループ会社となる |
| 81年12月 | 東洋機械エンジニアリングを設立 |
| 85年4月 | 電動サーボ射出成形機の生産開始 |
| 88年11月 | 東洋工機を設立 |
| 97年7月 | ISO9001認証を取得 |
| 98年5月 | 光ディスク成形機の生産開始 |
| 2000年3月 | ISO14001認証を取得 |
| 7月 | マレーシアに現地法人を設立 |
| 02年1月 | タイに現地法人を設立 |
| 03年8月 | 中国・上海に現地法人を設立 |
| 04年1月 | 大型ダイカストマシン「BD－1200V4－T」の生産開始 |
| 05年9月 | 東京証券取引所市場第一部に上場 |
| 06年11月 | 環境対応型電動ダイカストマシンを発表 |
| 07年3月 | 電動サーボ射出成形機「Si－Ⅳシリーズ」の生産開始 |
| 6月 | 初の海外生産拠点「東洋機械（常熟）」を中国に設立 |
| 08年2月 | 大型電動サーボ射出成形機「Si－850Ⅳ」の生産開始 |
| 4月 | 中国・広州に現地法人を設立 |
| 5月 | 環境対応型電動ダイカストマシン「Dsシリーズ」の生産開始 |
| 6月 | 東洋機械（常熟）で電動サーボ射出成形機の生産開始 |
| 09年10月 | 環境対応型大型電動ダイカストマシン「Ds－800」の生産開始 |
| 10年4月 | 東洋機械（常熟）でダイカストマシンの生産開始 |
| 9月 | カナダハスキー社とサプライヤー提携 |
| 11年2月 | 「省エネ小型低圧ダイカストシステム」（デンソー、宮本工業所との共同開発）で機械振興協会第8回新機械振興賞・経済産業大臣賞を受賞 |
| 4月 | インドに駐在員事務所を設置 |
| 12年9月 | 環境対応型電動ダイカストマシン「Ds－EXシリーズ」の生産開始 |
| 13年4月 | 電動サーボ射出成形機「Si－6シリーズ」の生産開始 |
| 14年3月 | 日本製鋼所、宇部興産機械と資本業務提携 |
| 12月 | 業界初の完全電動サーボダイカストマシン「DsFシリーズ」の生産開始 |
| 15年5月 | 創業90周年 |

東洋機械金属の本社